

# 倉賀野辻薬師遺跡

— 宅地分譲に伴う埋蔵文化財調査報告書 —

2014

群馬グランディハウス株式会社  
高崎市教育委員会  
有限会社 高澤考古学研究所

## 例 言

- 1 本書は、群馬県高崎市倉賀野町字辻薬師 5396 番地 1 に所在する「倉賀野町辻薬師遺跡」（高崎市遺跡調査番号 584）の発掘調査報告書である。
- 2 調査は、宅地分譲に伴う埋蔵文化財発掘調査として実施した。
- 3 発掘調査から整理作業を経て、報告書刊行に至るまでの一連の作業は、群馬グランディハウス株式会社様の費用負担によって行われた。
- 4 発掘調査及び整理作業は、高崎市教育委員会の指導・監理のもと、有限会社 高澤考古学研究所が実施した。
- 5 調査体制は、以下の通りである。  
高崎市教育委員会文化財保護課 田口 一郎・神澤 久幸・大野 義人  
有限会社 高澤考古学研究所 澤田 福宏
- 6 発掘調査は、平成 26 年 1 月 6 日から平成 26 年 2 月 7 日までの期間で実施した。調査面積は 380㎡である。
- 7 本書の編集は、有限会社 高澤考古学研究所の澤田 福宏が行った。執筆は 1 を高崎市教育委員会文化財保護課が、それ以外を澤田が行った。
- 8 基準・水準点測量及び遺構・遺物平面図測量はタナカ設計に委託した。
- 9 空中撮影は加藤空撮に委託した。
- 10 遺構及び遺物撮影は、澤田が行った。
- 11 発掘調査及び整理作業に従事した者は、以下の通りである。（敬称略、50 音順）  
澤田 美枝子・澤田 恵美・住谷 次男・関根 折夫・田村 睦・柳澤 敏子・逢田 保伯・波 明秀
- 12 発掘調査から報告書刊行に至るまでに、下記の機関に協力を賜った。（敬称略、50 音順）  
群馬グランディハウス株式会社
- 13 発掘調査により得られた資料及び出土遺物は、一括して高崎市教育委員会に保管してある。

## 凡 例

- 1 遺構挿入中に使用した方位記号は座標北を、水準線は標高を示す。座標は国家座標IX系を使用した。
- 2 土層注記の色調は、農林省農林水産技術会議事務局（財）日本色彩研究所監修「標準土色帖」を使用した。
- 3 本書で使用した地図は、第 1 図が国土地理院発行数値地図 1/25,000 地形図を、第 2 図は国土地理院発行数値地図 1/2,500（高崎市都市計画基本図）を使用した。
- 4 掲載図の縮尺は、各キャプション及び各図に示した通りである。
- 5 遺物実測図の縮尺は、各キャプションに示した通りである。
- 6 本書で使用した火山噴出物の記述は以下の通りである。  
As-C …………… 3 世紀後半降下「浅間 C 軽石」  
Hr-FA …………… 6 世紀初頭降下「榛名二ツ岳火山灰」  
As-B …………… 1108 年（天仁元年）降下「浅間 B 軽石」  
As-A …………… 1783 年（天明 3 年）降下「浅間 A 軽石」

## 目次

例言・凡例・目次	
I 調査に至る経緯	1
II 調査の方法と経過	1
III 遺跡の地理的環境と周辺遺跡	2
IV 基本堆積土層	4
V 調査の成果	6
VI 総括	14
写真図版	
参考文献・抄録	

## 挿図・表目次

第1図	周辺遺跡図 (1/25,000)	3
第2図	遺跡位置図 (1/2,500)	4
第3図	基本堆積柱状図・写真	4
第4図	遺跡全体図 (1/200)	5
第5図	1号住居 平面・断面図 掘り方平面図 (1/60) 出土遺物図 (1/3)	6
第6図	1号井戸 平面・断面図 (1/60)	7
第7図	2号井戸 1・2号土坑 平面・断面図 (1/60)	8
第8図	3～6号土坑 平面・断面図 (1/60)	9
第9図	1・2号溝 平面・断面図 (1/60) 出土遺物図 (1/3)	10
第10図	3・4号溝 平面・断面図 (1/60)	11
第11図	畝跡 平面・断面図 (1/100)	12
第12図	旧流路 平面・断面図 (1/100)	13
第13図	縄文包含層 出土遺物図 (1/3)	14
第1表	1号住居遺物観察表	7
第2表	1号溝遺物観察表	10
第3表	包含層遺物観察表	14

## 写真図版

PL1:空堀	PL2:空堀(垂直)	PL3:調査写真	PL4:調査写真	PL5:調査写真	PL6:調査写真
PL7:出土遺物写真					

## I 調査に至る経緯

平成25年9月、群馬グランディハウス株式会社（以下事業者）より高崎市教育委員会（以下市教委）に建築分譲造成予定地の埋蔵文化財の状況について照会があった。市教委は、照会地周辺が奈良～平安時代に至る散布地として遺跡台帳・地図に登録された埋蔵文化財包蔵地であるため試掘調査による確認を実施し、工事と埋蔵文化財保護との調整が必要な旨を回答した。

同年10月10日付けで事業者より試掘調査申込書が提出されたのを受けて、市教委は同年10月31日に工事予定地の試掘調査を実施し、奈良～平安時代集落跡の遺構を確認した。

試掘結果を受けて埋蔵文化財保護について事業者と協議を行ったが、計画変更は不可能ということなので、道路予定地に関して記録保存の発掘調査を実施することで合意した。

発掘調査は、市教委の作成する調査仕様書に基づく指導・監視の下、有限会社高澤考古学研究所に委託して実施することとなり、平成25年12月24日付けで高崎市長・事業者・高澤考古学研究所の三者協定を締結し、さらに協定に基づき平成25年12月24日付けで事業者と高澤考古学研究所の二者で発掘調査委託契約が締結された。

## II 調査の方法と経過

高崎市教育委員会による試掘調査の結果、遺構確認面までは現地表から約65cm下であることが確認されている為、重機にて表土を除去し、ジョレンを用い人力にて遺構確認作業を行った。遺構確認作業の結果、試掘通り、古墳時代の住居跡及び土坑等を検出した。また、調査区北側にて平安時代以前の畠跡を確認し、その下層にて旧流路を検出した。

検出された遺構は埋没状況を確認する為、土層観察用のベルトを残しながら、掘り下げ作業を行った。検出された遺物は必要に応じて座標を与え、平面図及びエレベーション図を作成し、写真記録を所得しながら調査を行った。写真は35mm小型一眼レフカメラを用い、カラーリバーサル、モノクロームネガの2種類のフィルムを使用し、1010万画素の小型一眼レフデジタルカメラを併用した。平面測量は光波測量機を使用し作成した。検出された遺構の調査が終了した後、ラジコンヘリコプターを使用し空中撮影を実施した。その後、調査区南側で確認された旧流路の調査を実施した。すべての調査が終了した後、平成26年2月3日に高崎市教育委員会の発掘作業完了確認を受け、同年2月7日に現地調査を終了した。

- 1月6日 現場調査開始準備
- 1月7日 重機による表土除去作業及び遺構確認作業
- 1月9日 遺構確認作業 畠跡検出
- 1月10日 遺構確認作業 1号住居及び1、2号井戸検出
- 1月14日 各遺構掘り下げ作業開始
- 1月16日 縄文包含層を確認 包含層掘り下げ作業開始
- 1月17日 光波測量機による平面測量
- 1月27日 遺構掘り下げ作業終了 空撮の為の調査区清掃作業
- 1月28日 ラジコンヘリコプターによる空撮実施
- 1月29日 旧流路の調査開始
- 2月1日 光波測量機による平面測量
- 2月3日 高崎市教育委員会による発掘作業完了確認
- 2月7日 現場撤収作業 現地調査終了

### III 遺跡の地理的環境と周辺遺跡

群馬県高崎市は、関東平野の北西端に位置しており、西に浅間山、妙義山、北に広大な扇状地を持つ榛名山、赤城山、そして南西から南方にかけては御荷鉾山系、秩父山系等の山々に囲まれ、南東に広大な関東平野を望むことができる環境にある。また、市内には信州県境を源とする烏川が北西から南東方向に流れ、碓氷川や鏡川、井野川等の支流を集めながら利根川と合流している。烏川と井野川に挟まれた地域は高崎台地と呼ばれ、本遺跡はこの台地上にあり、標高は 82.6 m である。

倉賀野辻薬師遺跡は、高崎市市街地の南東方向、国道 17 号線と県道 133 号線の交差点、倉賀野町の信号から南約 100 m に位置し、高崎市倉賀野町字辻薬師に存在する。

周辺遺跡としては、旧石器時代の遺構はないが、岩鼻坂上北遺跡 (6) にて倒木痕から砂質頁岩製尖頭器の出土が確認されている。生活の痕跡が確認されるのは縄文時代中期以降からで、倉賀野万福寺遺跡 (19)、下中居条里Ⅰ～Ⅲ遺跡 (27) 等で住居跡が確認されている。弥生時代に関しては、本遺跡より北西 4.4km には竜見町式土器の標識遺跡である竜見町遺跡があり、北西 3.3km には高崎競馬場遺跡が周知されるところであるが、ごく周辺での遺跡の検出例は現在確認されていない。遺跡が増えるのは古墳時代になってからで、特に周辺では市内最大級の全長 171.5m の浅間山古墳 (16) をはじめ人鶴巻古墳 (18)、小鶴巻古墳 (17) が群存する倉賀野古墳群 (15) がある。また、佐野古墳群 (21)、南東方向には大応寺古墳群・大道南古墳群 (5) があり、烏川左岸には県内屈指の古墳群が形成されるようになる。また、当該期の集落遺跡としては、下佐野遺跡Ⅱ地区 (22)、下中居条里Ⅰ～Ⅲ遺跡 (27)、倉賀野万福寺遺跡 (19)、倉賀野宮ノ前遺跡 (20)、下之城村前Ⅰ～Ⅴ遺跡 (23) 等があげられる。平安時代においては佐野地区に大集落が形成されるようになり、下佐野遺跡Ⅱ地区 (22) では 134 軒の竪穴式住居跡と 18 棟の掘立柱建物跡が検出されている。また、本遺跡に近接している倉賀野中里前遺跡 (2) でも竪穴住居跡が 10 軒検出されている。生産遺構としては天仁元 (1108) 年に浅間山が噴火した際に降灰した火山灰 (As-B) に埋没した水田跡が矢中村東 A・B・C 遺跡 (33)、下之城村東Ⅰ・Ⅱ遺跡 (24)、下中居条里Ⅰ～Ⅲ遺跡 (27)、倉賀野条里Ⅰ～Ⅴ遺跡 (13) 等数多く発見されており、周辺の低地上には条里制に則って整備された平安時代の水田跡が広範囲に分布しているものと推測される。中世では応永年間に築城されたとされる倉賀野城 (14) が、現在の倉賀野市街地から烏川の岸までを占地し、周辺には倉賀野東城 (4)、倉賀野西城 (40)、上稲荷前屋敷 (12)、倉賀野新堀屋敷 (41) 等の城館の存在が知られる。近世には倉賀野宿が形成され、陸上交通の要衝となり、また、共栄橋付近には倉賀野河岸が建設され、明治期に鉄道が開通するまで、舟運の拠点でもあり、周辺一帯は非常に栄えていた地域である。



倉賀野辻薬師遺跡

高崎市役所からの遠景



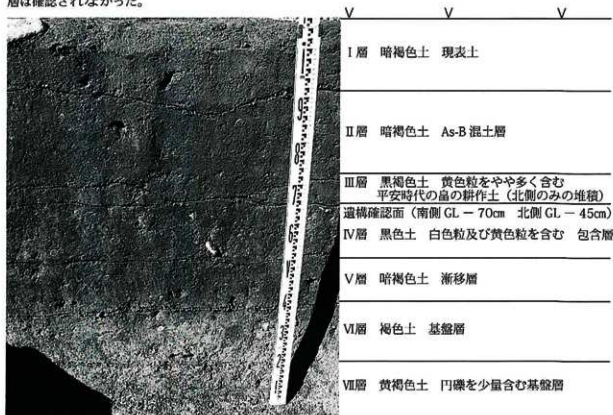
1. 本遺跡
2. 倉賀野中里前遺跡
3. 長賀寺古墳
4. 倉賀野東城
5. 大応寺古墳群・大道南古墳群
6. 岩鼻坂上北遺跡
7. 岩鼻・延養寺遺跡
8. 綿貫・台新田遺跡
9. 倉賀野下天神遺跡
10. 永泉寺の砦
11. 倉賀野統橋遺跡
12. 上稲荷前屋敷
13. 倉賀野糸里Ⅰ～Ⅴ遺跡
14. 倉賀野城
15. 倉賀野古墳群
16. 浅間山古墳
17. 小鶴巻古墳
18. 大鶴巻古墳
19. 倉賀野万福寺遺跡
20. 倉賀野宮ノ前遺跡
21. 佐野古墳群
22. 下佐野遺跡Ⅱ地区
23. 下之城村前Ⅰ～Ⅴ遺跡
24. 下之城村東Ⅰ・Ⅱ遺跡
25. 下之城村西Ⅱ遺跡
26. 下之城村北Ⅱ遺跡
27. 下中居糸里Ⅰ～Ⅲ遺跡
28. 上中居字名奈遺跡
29. 宝昌寺裏遺跡
30. 矢中村北Ⅱ遺跡
31. 矢中下村北Ⅱ遺跡
32. 矢中瀬ノ内遺跡
33. 矢中村東A・B・C遺跡
34. 矢中・村前遺跡
35. 柴崎蟹沢古墳
36. 矢中遺跡群Ⅰ・天王遺跡
37. 西浦・隼人・吹手西遺跡
38. 蟹沢遺跡群Ⅰ～Ⅲ
39. 元島名將軍塚古墳
40. 倉賀野西城
41. 倉賀野新堀屋敷
42. 倉賀野駅北Ⅰ～Ⅵ遺跡
43. 倉賀野上極遺跡

第1図 周辺遺跡図 (1/25,000)

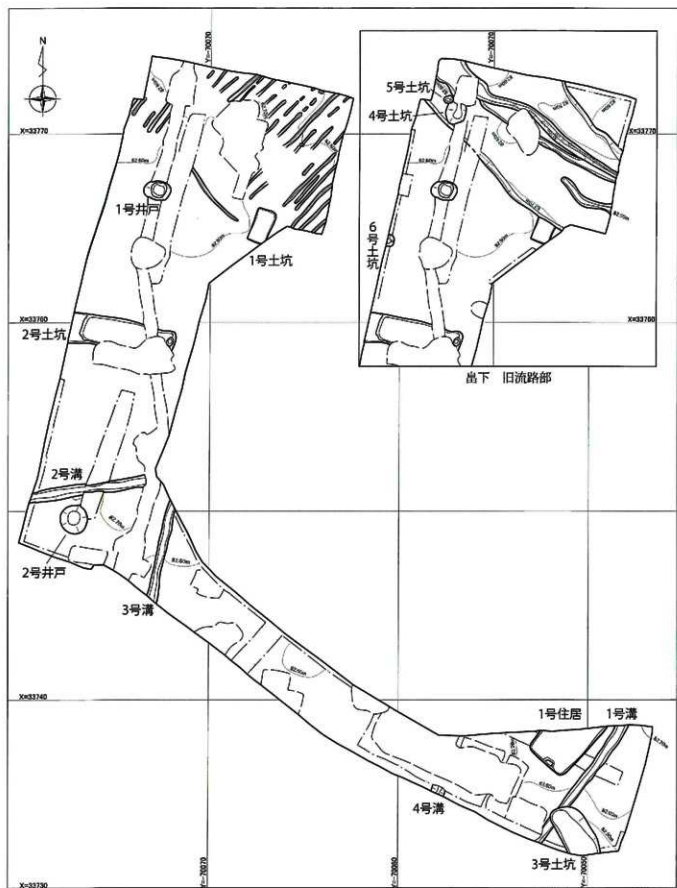


#### IV 基本堆積土層

I層は現表土で、15～30cm程堆積している。II層はAs-B混土層で、As-A粒と考えられる白色粒を若干含む。本層以下はAs-B粒の含有は認められない。III層は黄色粒をやや多く含む黒褐色土で、厚い箇所では約25cm堆積しており、調査区北側で検出された畝跡の覆土である。IV層は白色軽石(As-C粒か)を含む黒色土で、本層上面が遺構確認面である。現地表から北側調査区にて約45cm下で、南側調査区にて約70cm下となる。V層は暗褐色土で、黄色粒及び白色粒を含みIV層からVI層への漸移層である。IV層及びV層上面は縄文土器を少量含み、包含層を形成している。VI及びVII層は褐色～黄褐色土で、基盤となる泥流層である。VII層には拳大の円礫が少量含まれる。VII層以下の層位は井戸の壁面での観察では約80cm下まで全て黄褐色土で、礫層及び砂層は確認されなかった。



第3図 基本堆積柱状図・写真



第4図 遺跡全体図 (1/200)

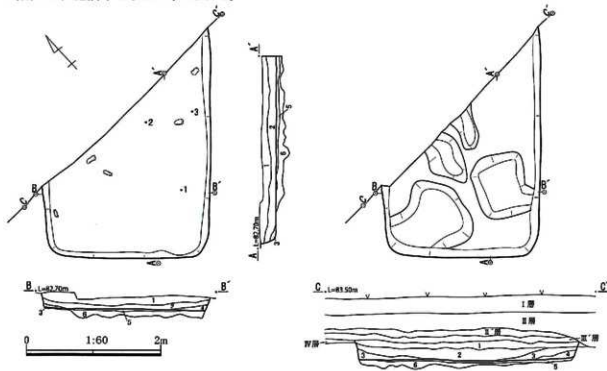


## V 調査の成果

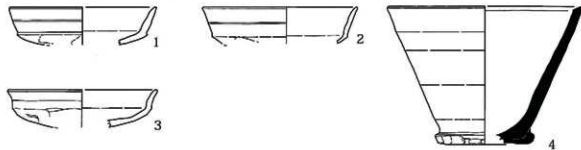
発掘調査の結果、竪穴住居跡1軒、井戸2基、土坑6基、溝4条、As-B降下以前の畚跡及びその下層から旧流路を検出した。検出された竪穴住居跡は1軒の為、集落域を推測するのは難しいが、畚跡は北及び北東方向に広がるものと推測される。また、遺構確認面であるIV層には縄文土器片が少量含まれ、遺物包含層の形成が伺える。

### 1号住居

調査区南東部に検出された。北側の一部が調査区外になる為、規模の詳細は不明であるが、長軸3.5m以上、短軸2.54mで平面は長方形と考えられる。主軸方位はN-42°-Eである。カマドは検出されなかったが、調査区北壁の床面付近は焼土粒及び灰が多く含まれる為、北側に設置されている可能性が考えられる。床面は、地山褐色土と黒褐色土の混土で貼り床され、全体的に硬く硬化している。柱穴及び壁周溝は検出されなかった。遺物は少量出土し、床面からはNa1が出土した。Na4は覆土中からの出土である。また、住居西側にて盆櫃み石と推測される細長い礫が3個出土した。掘り方は不整形で凹凸が多い。出土した遺物から帰属時期は7世紀前半であると考えられる。



1. 黒褐色土 粘性强・しまりややあり 白色軽石（6-7P粒か）をやや多く含み、地山褐色土小ブロック、白色粒及び黄色粒を少量含み、焼土粒、炭化物粒を僅かに含む。
  2. 黒褐色土 粘性强・しまりややあり 地山褐色土小ブロック、白色粒及び黄色粒をやや多く含み、白色軽石（6-7P粒か）、焼土粒、炭化物粒を少量含む。
  3. 黒褐色土 粘性强・しまりややあり 地山褐色土小ブロック及び黄色粒をやや多く含み、白色粒を少量含む。
  4. 黒褐色土 粘性强・しまりややあり 黄色粒をやや多く含み、地山褐色土小ブロックを少量含む。
  5. 黒褐色土 粘性强・しまりややあり 地山褐色土小ブロック及び黄色粒を多く含み、焼土粒、炭化物粒を含む。上面は非常に硬くしまる状態。
  6. 黒褐色土 粘性强・しまりややあり 地山褐色土小ブロック及び黄色粒を多く含む。掘り方
- Ⅲ 層 黒褐色土 粘性强・しまりあり 白色粒及び黄色粒を少量含む。基本層は土層IV層に対応するが、本層は耕作土ではない。



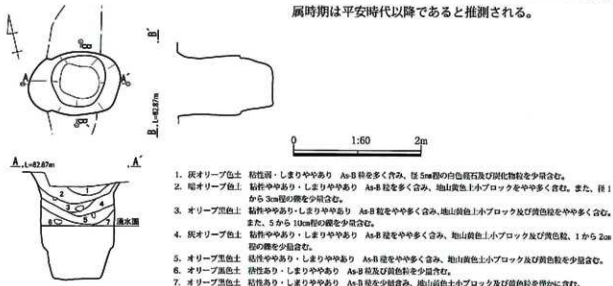
第5図 1号住居 平面・断面図 掘り方平面図（1/60） 出土遺物図（1/3）

第1表 1号住居遺物観察表 (単位cm)

番号	種別 器種	出土・埋 出位置	口径・底径 器高・<強高>	整形・調整・文様等	胎土	焼成(質感) 色
1	土師器 杯	1号住居 床面	11.0・ — <3.0>	外面:口縁部ヨコナデ 1条の沈線あり(2段口 縁状) 体部~底部へラ削り 内面:口縁部~体部ヨコナデ 底部ナデ	細砂粒・白色粒	良好(硬質) 橙色
2	土師器 杯	1号住居 覆土	11.2・ — <2.9>	外面:口縁部ヨコナデ 1条の沈線あり(2段口 縁状) 体部~底部へラ削り 内面:口縁部~体部ヨコナデ 底部ナデ	細砂粒・白色粒	やや不良(軟質) にぶい橙色
3	土師器 杯	1号住居 掘り方	11.2・ — <3.0>	外面:口縁部ヨコナデ 体部~底部へラ削り 内面:口縁部~体部ヨコナデ 底部ナデ	細砂粒・白色粒	良好(硬質) 橙色
4	須恵器 平底鉢	1号住居 覆土	15.4・ 7.8 — 11.0	外面:ロクロ盤形 底部縁手持ちへラ削り 底部 手持ちへラ削り 内面:ロクロ盤形 口唇部平坦 面あり	細砂粒・白色粒	良好(硬質) 灰色

### 1号井戸

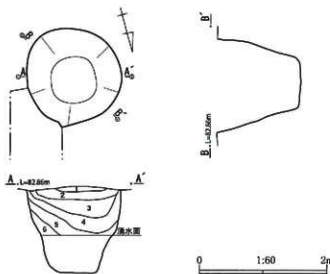
調査区北西部にて検出された。規模は、長軸 1.38m、短軸 1.01m、深さ 1.68m を測る。平面形は円形で断面形は筒形であるが、上部はややラッパ状に広がり、底面から 48cm 上で段が作られている。構築材と考えられる木製品及び礫等は検出されず、素掘りの状態である。覆土には As-B 粒が含まれ、中層では地山褐色土小ブロックを多く含む層が堆積している。確認面から 87cm にて湧水が認められた。壁面は湧水による侵食等は確認されず、掘削時の作業痕等も確認されなかった。底面は平坦で、集石等は確認されなかった。遺物は確認されなかった。覆土中に As-B 粒が含まれることから、帰属時期は平安時代以降であると推測される。



第6図 1号井戸 平面・断面図 (1/60)

### 2号井戸

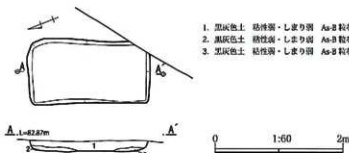
調査区南西部にて検出された。規模は、長軸 1.48m、短軸 91cm、深さ 1.38m を測り、平面形は円形で断面形は逆台形である。構築材と考えられる木製品及び礫等は検出されず、素掘りの状態である。覆土には As-B 粒が含まれ、中層では地山褐色土小ブロックを少量含む層が堆積している。確認面から 58cm にて湧水が認められた。壁面は湧水による侵食等は確認されず、掘削時の作業痕等も確認されなかった。底面は平坦で、集石等は確認されなかった。遺物は確認されなかった。覆土中に As-B 粒が含まれることから、帰属時期は平安時代以降であると推測される。



1. 灰オリーブ色土 粘性强・しまりややあり As-B粒を多く含む、白色粒及び黄色粒を少量含む。
2. オリーブ黒色土 粘性强・しまりややあり As-B粒を多く含む、径5mm程度の灰色軽石 (As-A粒か) を少量含む。
3. オリーブ色土 粘性强ややあり・しまりややあり As-B粒を多く含む、径5mm程度の灰色軽石 (As-A粒か) 及び地山黄色土小ブロック、黄色粒を少量含む。
4. 暗オリーブ褐色土 粘性强ややあり・しまりややあり As-B粒を多く含む、地山黄色土小ブロック及び黄色粒をやや多く含む。
5. オリーブ黒色土 粘性强・しまりあり As-B粒を多く含む、地山黄色土小ブロック及び黄色粒を少量含む。
6. オリーブ黒色土 粘性强・しまりあり As-B粒をやや多く含む、地山黄色土小ブロック及び黄色粒を少量含む。

### 1号土坑

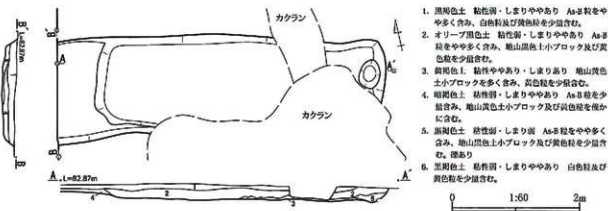
調査区北側にて検出された。規模は、長軸 2.00m、短軸 1.04m、深さ 16cm で平面形態は隅丸長方形である。断面形は箱状で、底面は平坦である。遺物は検出されなかった。覆土中に As-B 粒が含まれる為、帰属時期は平安時代以降であると考えられる。



1. 黒灰色土 粘性弱・しまり弱 As-B粒を多く含む、白色軽石及び灰色軽石を少量含む。
2. 黒灰色土 粘性弱・しまり弱 As-B粒を多く含む、炭化植物残及び黄色粒を少量含む。
3. 黒灰色土 粘性弱・しまり弱 As-B粒を多く含む、地山暗褐色土小ブロック及び黄色粒を少量含む。

### 2号土坑

調査区西側にて検出された。西側が一部調査区外になる為、長軸は不明である。規模は、長軸 5.05m 以上、短軸 1.54m、深さ 25cm で平面形態は隅丸長方形と推測される。断面形は箱状で、底面は浅い凹凸が多い。遺物は検出されなかった。覆土中に As-B 粒が含まれる為、帰属時期は平安時代以降であると考えられる。

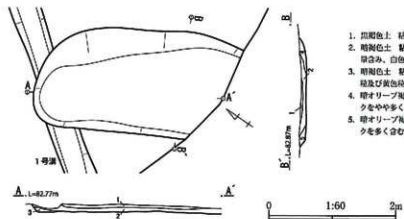


1. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり As-B粒をやや多く含む、白色粒及び黄色粒を少量含む。
2. オリーブ黒色土 粘性弱・しまりややあり As-B粒をやや多く含む、地山褐色土小ブロック及び黄色粒を少量含む。
3. 黒褐色土 粘性强ややあり・しまりあり 地山黄色土小ブロックを多く含む、黄色粒を少量含む。
4. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり As-B粒を少量含む、地山黄色土小ブロック及び黄色粒を僅かに含む。
5. 黒褐色土 粘性弱・しまり弱 As-B粒をやや多く含む、地山褐色土小ブロック及び黄色粒を少量含む。礫あり。
6. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり 白色粒及び黄色粒を少量含む。

第7図 2号井戸 1・2号土坑 平面・断面図 (1/60)

### 3号土坑

調査区南東部にて検出された。1号溝と重複関係にあり、本遺構の方が古いと考えられる。南側が一部調査区外になる為、長軸は不明である。規模は、長軸2.91m以上、短軸1.71m、深さ12cmで平面形態は楕円形であると推測される。断面形は皿状で、底面は平坦である。遺物は、覆土中より土師器の小破片が少量出土した。覆土にはAs-B粒が含まれず、出土した遺物及び重複関係から、帰属時期は古墳時代であると推測される。



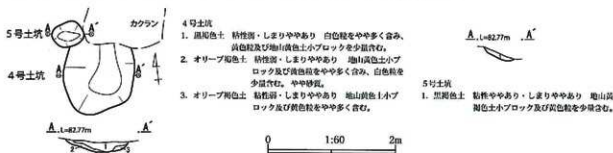
1. 黒褐色土 粘性ややあり・しまりややあり 白色粒及び黄色粒を少量含む。
2. 暗褐色土 粘性ややあり・しまりややあり 地山暗褐色土小ブロックを少量含む、白色粒及び黄色粒を含む。
3. 暗褐色土 粘性ややあり・しまりややあり 地山暗褐色土小ブロック、白色粒及び黄色粒を少量含む。
4. 暗オリーブ褐色土 粘性ややあり・しまりややあり 地山暗褐色土小ブロックをやや多く含む、白色粒及び黄色粒を少量含む。
5. 暗オリーブ褐色土 粘性ややあり・しまりややあり 地山暗褐色土小ブロックを多く含む。

### 4号土坑

調査区北西部にて検出された。5号土坑と重複関係にあるが、前後関係は不明である。東側一部が攪乱により破壊される為、長軸は不明である。規模は、長軸1.12m以上、短軸1.05m、深さ16cmで平面形態は不整形である。断面形は皿状で、底面は凹凸が多い。遺物は検出されなかった。畚跡下からの検出の為、帰属時期は平安時代以前であると推測される。

### 5号土坑

調査区北西部にて検出された。4号土坑と重複関係にあるが、前後関係は不明である。規模は、長軸49cm、短軸41cm、深さ23cmを測り、平面形態は楕円形で、断面形はU字状である。遺物は検出されなかった。4号土坑同様に畚跡下からの検出の為、帰属時期は平安時代以前であると推測される。

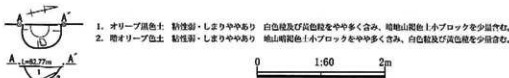


- 4号土坑
1. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり 白色粒をやや多く含む、黄色粒及び地山褐色土小ブロックを少量含む。
  2. オリーブ褐色土 粘性弱・しまりややあり 地山褐色土小ブロック及び黄色粒をやや多く含む、白色粒を少量含む。やや砂質。
  3. オリーブ褐色土 粘性弱・しまりややあり 地山褐色土小ブロック及び黄色粒をやや多く含む。

- 5号土坑
1. 黒褐色土 粘性ややあり・しまりややあり 地山黒褐色土小ブロック及び黄色粒を少量含む。

### 6号土坑

調査区西側にて検出された。西側一部が調査区外になる為、長軸は不明である。規模は、東西38cm、南北67cm以上、深さ23cmを測り、平面形態は楕円形と推測される。断面形はU字状である。遺物は検出されなかった。IV層下からの検出の為、帰属時期は古墳時代若しくは、それ以前であると推測される。



1. オリーブ褐色土 粘性弱・しまりややあり 白色粒及び黄色粒をやや多く含む、地山褐色土小ブロックを少量含む。
2. 暗オリーブ褐色土 粘性弱・しまりややあり 地山暗褐色土小ブロックをやや多く含む、白色粒及び黄色粒を少量含む。

第8図 3～6号土坑 平面・断面図 (1/60)

## 1号溝

調査区南東側にて検出された。1号住居と隣接しており、付帯施設と推測されたが、主軸方向が若干が異なり、南西方向に延びる為単体の溝とした。規模は、長さ7.58m以上、幅62cm、深さ18cmを測り、断面形はU字状である。主軸方向はN-36°-Eで、両端での高低差は約9cmあり、南西方向に緩やかに傾斜する。覆土には砂礫層の堆積は確認されず、流水を受けた堆積状況は認められなかった。遺物は覆土中よりS字台付裏の小破片及び土師器、須恵器の小破片が出土した。出土した遺物等から帰属時期は7世紀代であると推測される。

### SP A

- オリブ黒色土 粘性弱・しまりややあり 白色粒及び黄色粒を少量含む。
- オリブ黒色土 粘性ややあり・しまりややあり 白色粒及び黄色粒を少量含む、地山暗褐色土小ブロックを僅かに含む。

### SP B

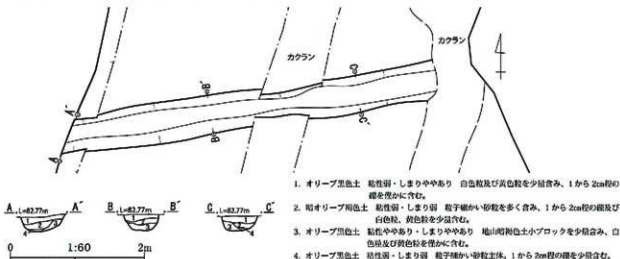
- オリブ黒色土 粘性弱・しまりややあり 黄色粒、白色粒及び径0.5~1cmの白色軽石を少量含む。
- オリブ黒色土 粘性弱・しまりややあり 白色粒、黄色粒及び地山褐色土小ブロックを少量含む。

第2表 1号溝遺物観察表 (単位cm)

番号	種類 器種	出土遺構 出土層位	口径・底径 器高・<残高>	整形・調整・文様等	胎土	焼成(質感) 色
5	須恵器 蓋	1号溝 覆土	12.6・ <3.3>	外面：天井部へう削り 体部～口縁部ロクロ整形 内面：ロクロ整形	細砂粒・白色粒	良好(硬質) 灰色

## 2号溝

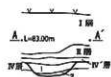
調査区南西側にて検出された。規模は、長さ5.62m以上、幅58cm、深さ26cmを計り、断面形はU字状である。主軸方向はN-80°-Eで、両端での高低差は約7cmあり、西方向に緩やかに傾斜する。覆土下層には砂礫層が堆積しており、流水があったと考えられる。遺物は覆土中より土師器環の小破片が出土した。出土した遺物等から帰属時期は古墳時代であると推測される。



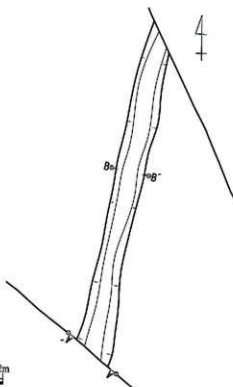
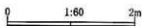
第9図 1・2号溝 平面・断面図 (1/60) 出土遺物図 (1/3)

### 3号溝

調査区南西部にて検出された。規模は、長さ5.15m以上、幅53cm、深さ17cmを測り、断面形はU字状である。主軸方向はN-13°-Eで、両端での高低差は約7cmあり、南方向に緩やかに傾斜する。覆土には砂礫層の堆積は確認されず、流水を受けた堆積状況は認められなかった。遺物は覆土中より土師器杯の小破片が出土した。出土した遺物等から帰属時期は古墳時代であると推測される。

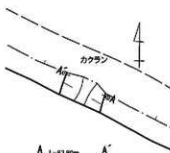


1. オリーブ黒土 粘性ややあり・しまりややあり 白色粒及び黄色粒をやや多く含み、1~2cm程度の硬さを有する。
2. 黄褐色土 粘性ややあり・しまりややあり 地山褐色土小ブロックを多く含み、白色粒、黄色粒を少量含む。

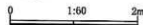


### 4号溝

調査区南東部にて検出された。ほとんどが攪乱により破壊されている為、主軸方向及び規模は不明であるが、延長線上の調査区北壁に若干の痕跡が確認できた。確認された長さは38cm、幅71cm、深さ34cmを測り、断面形はU字状である。覆土には砂礫層の堆積は確認されず、流水を受けた堆積状況は認められなかった。遺物は検出されなかった。帰属時期は不明であるが、覆土の含有物及び堆積状況は2、3号溝とほぼ同様の為、帰属時期は古墳時代であることが推測される。



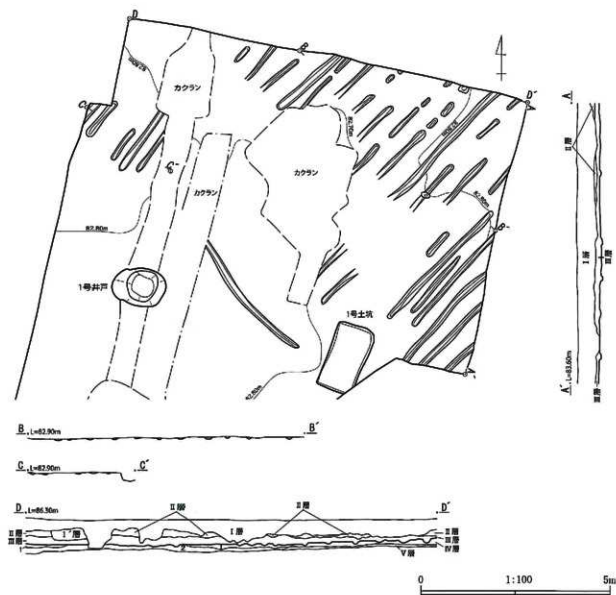
1. オリーブ黒土 粘性ややあり・しまりややあり 白色粒及び黄色粒を少量含み、地山褐色土小ブロックを硬さに含む。
2. オリーブ黒土 粘性あり・しまりややあり 地山褐色土小ブロックをやや多く含み、白色粒及び黄色粒を少量含む。



### 溝

調査区北側にて検出された。ほとんどが飲溝の確認で、作付け面は検出されなかった。飲溝間の間隔は狭い箇所では約8cm、広い箇所では78cmである。ただし、広い箇所では中間の飲溝が削平されたか、確認面より浅い為検出されなかった可能性も推測され、概ね8から10cmの間隔であったと考えられる。確認面からの飲溝の深さは2~5cm前後である。北東から南西方向に耕作された飲溝は20条あり、耕作の主軸方向はN-43°-Eである。これらとは方向が異なる飲溝が南側に1条あり、これ以南では、飲溝は検出されなかった。この飲溝は規模及び覆土の特徴等は他の飲溝と同様であるが、区画的要素が深い溝である可能性が指摘される。また、交差及び重複する飲溝は確認されなかった。耕作土の厚さは調査区北壁の断面観察にて厚い箇所では約25cmあり(第11図・PL6参照)、上層はAs-B粒置土層である。畝跡は調査区北側のみの検出で、他地点では検出されなかった。また、調査区各壁の断面観察においても、耕作土と考えられる土壌は飲溝が検出された周辺のみで、畝跡は本遺跡の北及び北東側に広がっているものと推測される。調査区内での耕作面積は約71㎡である。遺物は検出されなかったが、耕作土にはAs-B粒が確認されない為、帰属時期は平安時代以前であると推測される。

第10図 3・4号溝 平面・断面図 (1/60)



SP A・D

- I層 基本堆積I層 暗褐色土 粘性なし・しまり弱 As-B粒、白色軽石 (As-A粒か) をやや多く含む、黄色粒及び褐色土小ブロックを少量含む。現代土及び耕作土  
 II層 基本堆積II層 オリーブ褐色土 粘性弱・しまりややあり As-B粒をやや多く含む、白色軽石 (As-A粒か)、白色粒及び黄色粒を少量含む。  
 III層 基本堆積III層 オリーブ褐色土 粘性弱・しまりややあり 白色粒及び黄色粒をやや多く含む、白色軽石 (Hr-FP粒か) を少量含む。平安時代耕作土  
 IV層 基本堆積IV層 黒褐色土 粘性ややあり・しまりあり 白色粒及び黄色粒を少量含む、白色軽石 (As-C粒か) を少量含む。  
 V層 基本堆積V層 オリーブ褐色土 粘性ややあり・しまりあり 白色粒及び黄色粒を少量含む。耕作層

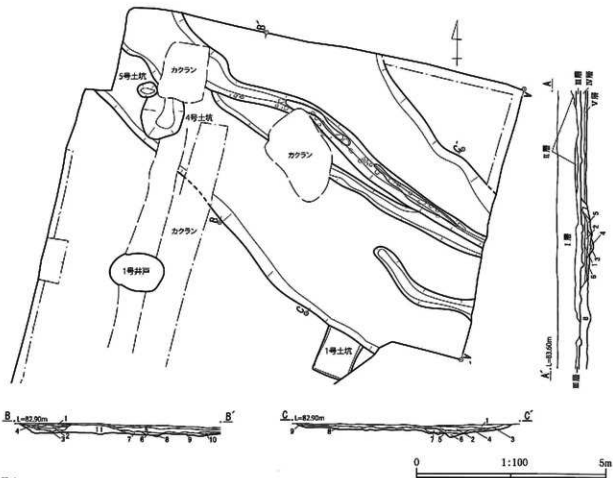
SP D

1. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり やや砂質。白色粒及び黄色粒を少量含む。基本堆積IV層に似る。旧流路覆土  
 2. 黒褐色土 粘性ややあり・硬くしまる やや砂質。地山褐色土小ブロックをやや多く含む。1から2cm程度の隙、白色粒及び黄色粒を含む。旧流路覆土

第11図 畠跡 平面・断面図 (1/100)

### 旧流路 (埋没河川)

調査区北側にて検出された。長さ12.3m以上、幅5.92m、深さ32cmで主軸方向はN-48°-Wである。若干蛇行しながら北西から南東方向へ緩やかに傾斜している。西端と東端での底面の高低差は約6cmである。覆土上層は畠跡の耕作土で、部分的にやや砂質である。底部には砂礫層の堆積が認められ、S字台付甕の小破片がこの砂層中から出土した。また、覆土にはAs-B粒は含まれず、少量の土師器片が検出されている。縄属時代の判断は難しいが、流路として機能を失ったのは古墳時代から奈良時代頃と推測され、As-B降下以前には完全に埋没し、周辺は畠として利用されたものと考えられる。



SP A

1. 暗オリーブ褐色土 粘性弱・しまりややあり 白色粒、黄色粒を少量含む、1から3m大の礫を少量含む。
2. 暗オリーブ褐色土 粘性弱・しまりややあり 白色粒、黄色粒、地山褐色土小ブロックを少量含む、1から3m大の礫を少量含む砂質土。
3. オリーブ褐色土 粘性弱・しまりあり 地山褐色土小ブロックをやや多く含む、1から3m大の礫及び白色粒、黄色粒を少量含む砂質土。
4. 褐色土 粘性なし・硬くしまる 粒子細かい砂主体で、1から3m大の礫を多く含む。
5. オリーブ黒色土 粘性ややあり・しまりややあり 白色粒、黄色粒を含む、地山褐色土小ブロックを少量含む。
6. 暗オリーブ褐色土 粘性ややあり・しまりややあり 地山褐色土小ブロックを多く含む、1から3m大の礫及び黄色粒を少量含む。
7. オリーブ黒色土 粘性ややあり・しまりあり 白色粒、黄色粒を少量含む、基本塊状断面に似る。
8. オリーブ褐色土 粘性弱・しまりややあり 地山褐色土小ブロック、白色粒、黄色粒を含む、1から3m大の礫を少量含む。

SP B

1. 明灰黄色土 粘性弱・しまりややあり 粒子細かい砂粒をやや多く含む、白色粒、黄色粒を少量含む。基本塊状断面に似る。
2. オリーブ褐色土 粘性弱・やや硬くしまる 粒子細かい砂粒をやや多く含む、1層の小ブロックを少量含む、部分的に段分の状況が認められる。
3. 暗オリーブ褐色土 粘性なし・硬くしまる 粒子細かい砂粒を多く含む、1から3m大の礫を少量含む。
4. オリーブ褐色土 粘性なし・やや硬くしまる 粒子細かい砂粒を多く含む、1層の小ブロックを少量含む。
5. 暗オリーブ褐色土 粘性弱・しまりややあり 粒子細かい砂粒を多く含む、1から3m大の礫を少量含む、部分的に段分の状況が認められる。
6. 暗オリーブ褐色土 粘性なし・硬くしまる 粒子細かい砂粒主体、1から3m大の礫を少量含む。
7. 暗オリーブ褐色土 粘性弱・やや硬くしまる 砂粒を多く含む、地山褐色土小ブロック及び黄色粒を少量含む、部分的に段分の状況が認められる。
8. オリーブ黒色土 粘性弱・硬くしまる 粒子細かい砂粒主体、若干ミナリ状理節が認められる。黄色粒及び1から3m大の礫を少量含む。
9. 暗オリーブ褐色土 粘性弱・硬くしまる 地山褐色土小ブロックをやや多く含む、砂粒及び黄色粒を多く含む。
10. 暗オリーブ褐色土 粘性弱・やや硬くしまる 粒子細かい砂粒を多く含む、1から3m大の礫及び黄色粒を少量含む。
11. オリーブ黒色土 粘性弱・やや硬くしまる 粒子細かい砂粒を多く含む、地山褐色土小ブロック及び1から3m大の礫を少量含む。

SP C

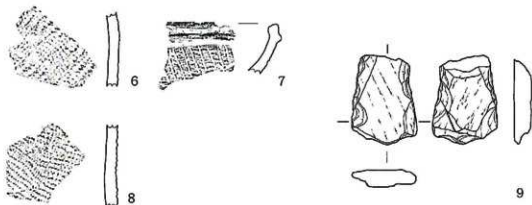
1. 暗灰黄色土 粘性弱・しまりややあり 粒子細かい砂粒をやや多く含む、白色粒、黄色粒を少量含む。基本塊状断面に似る。
2. 暗オリーブ褐色土 粘性弱・しまりややあり 粒子細かい砂粒をやや多く含む、白色粒、黄色粒を少量含む、部分的に段分の状況が認められる。
3. 暗オリーブ褐色土 粘性弱・しまりあり 粒子細かい砂粒をやや多く含む、地山褐色土小ブロックをやや多く含む。
4. オリーブ褐色土 粘性弱・硬くしまる 粒子細かい砂粒を多く含む、地山褐色土小ブロックを少量含む。
5. 暗オリーブ褐色土 粘性弱・硬くしまる 粒子細かい砂粒を多く含む、白色粒、黄色粒を少量含む。
6. オリーブ黒色土 粘性なし・やや硬くしまる 粒子細かい砂粒が若干ミナリ状理節する。1から2m大の礫をやや多く含む。
7. オリーブ黒色土 粘性ややあり・やや硬くしまる 砂粒を多く含む、地山褐色土小ブロック及び黄色粒を少量含む。
8. オリーブ褐色土 粘性弱・やや硬くしまる 砂粒を多く含む、地山褐色土小ブロック、黄色粒及び1から3m大の礫を少量含む。
9. 暗オリーブ褐色土 粘性弱・やや硬くしまる 砂粒を少量含む、白色粒及び黄色粒を僅かに含む。

第12図 旧流路 平面・断面図 (1/100)



## 縄文包含層

調査区ほぼ全域に堆積が認められ、基本堆積土層のIV層が該当する。上面は今回の遺構確認面である。特に遺物が多く検出されたのが調査区南西部である。包含層には焼土及び炭化物粒等は含まれず、白色軽石と黄色粒を少量含む黒色土で、均一した堆積をしている。調査区北西部での厚さは約15cmで、南東側では約20cmである。旧地形が北西から南東へ向い緩やかに傾斜している為、南東側ではより厚く堆積する傾向にある。全ての遺構の調査終了後、IV層を慎重に掘下げ、縄文時代の遺構の確認作業を行った。結果、当該期の遺構は確認出来なかったが、計11個の縄文土器片と1点の石器が検出された。図示できたのは下記の通りである。包含層形成要因については不明であるが、出土した各遺物は摩滅がほとんど無い為、近接して遺構の存在が考えられる。地形及び出土状況から本遺跡の西側に求められると推測される。



第13図 縄文包含層 出土遺物図 (1/3)

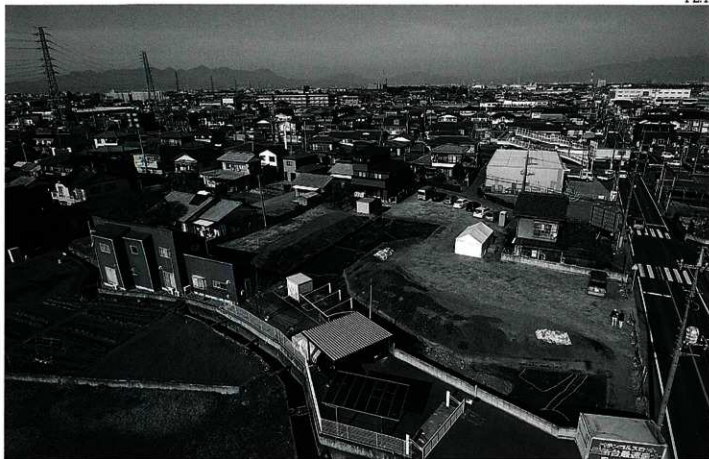
第3表 包含層遺物観察表 (単位cm)

番号	種別 器種	出土遺構 出土層位	口径・底径 層高・(残高)	整形・調整・文様等	胎土	焼成(質感) 色
6	縄文土器 深鉢	包含層 基本堆積IV層	—・— (5.9)	外面: 単節LR縄文を施文 内面: 縦方向のナデ 内外面の色調はにぶい黄褐色だが断面にて内部は 黒色を呈する	片岩片含有か 細砂粒 繊維含有	良好(硬い) にぶい黄褐色
7	縄文土器 深鉢	包含層 基本堆積IV層	—・— (3.9)	外面: 口縁部隆帯 隆帯下に指突文と考えられる 中に斜め方向の沈線施文 内面: 縦方向のナデ 内外面及び断面にて内部は暗赤褐色を呈する	砂粒 白色粒	良好(硬い) 暗赤褐色
8	縄文土器 浅鉢	包含層 基本堆積IV層	—・— (6.6)	外面: 単節RL縄文を施文 内面: ナデ 内外面の色調はにぶい黄褐色だが断面にて内部は 黒色を呈する	細砂粒 白色粒 繊維含有	良好(硬い) にぶい黄褐色
9	石器 打製石片	包含層 基本堆積IV層	長7.1・幅5.2 重さ75g		片岩製	暗緑灰色

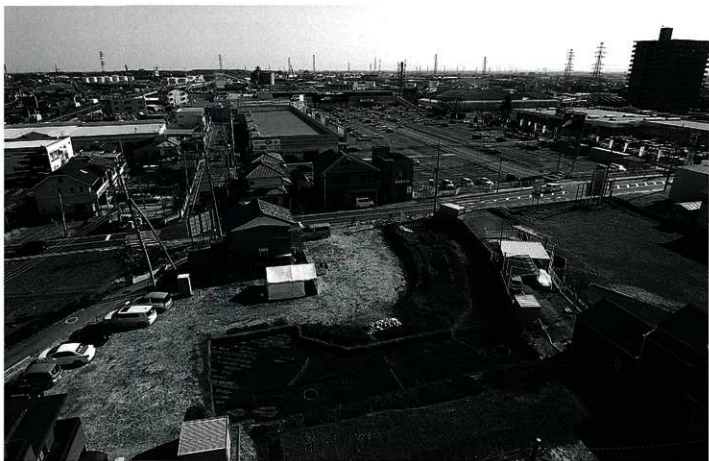
## VI 総括

今回検出された畚跡と1号住居跡の関係であるが、調査の結果両者には時期幅があり同時存在はしていなかったと考えられる。しかし、隣接(第2図参照)して調査された倉賀野中里前遺跡(2)において平安時代の住居跡が10軒検出されており、本遺跡で確認された畚跡の耕作者と推測することは可能であろう。倉賀野中里前遺跡では畚跡は検出されていない為、本遺跡との中間地点が集落と生産域の境であると推測される。なお、今回確認された畚跡に関しては、層厚が厚い箇所では25cm程あるが、遺構確認面であるIV層を約2~5cm程しか掘き込んでおらず、重機による表土除去及び遺構確認作業時に少しでも深く掘削してしまうと畚跡を検出する事は非常に困難になってしまうと考えられる。よって今後周辺の発掘調査時には表土除去時の留意が必要であることが指摘されるところである。

# 写真図版



調査区全景 上が北西



調査区全景 上が東



調査区垂直全景 上が北



島跡部垂直撮影 上が西



表土除去作業



1号住居Aセクション 南東から



1号住居Bセクション 南西から



1号住居遺物出土状況全景 南西から



1号住居 遺物No.4 出土状況 南西から



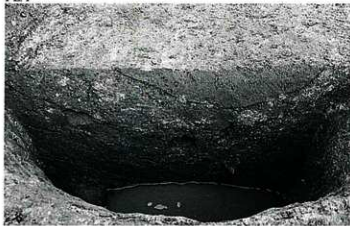
1号住居 遺物出土状況 東から



1号住居掘り方セクション 南東から



1号住居掘り方全景 南西から



1号井戸 Aセクション 南から



2号井戸 Aセクション 北から



1号井戸全景 南から



2号井戸全景 南から



2号土坑 Aセクション 南から



3号土坑 Aセクション 西から



1号土坑全景 西から



2号土坑全景 東から



3号土坑全景 北東から



4・5号土坑全景 東から



6号土坑全景 東から



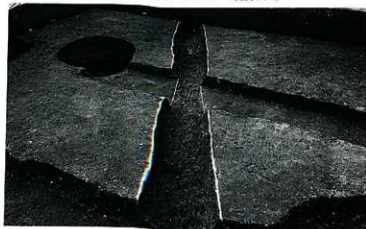
1号溝Bセクション 南西から



3号溝Aセクション 北東から



1号溝全景 南西から



2号溝全景 東から



3号溝全景 北から



島跡 D セクション 南から



島跡全景 南東から



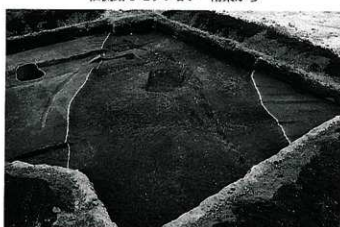
島跡全景 北西から



旧流路 C セクション 南東から



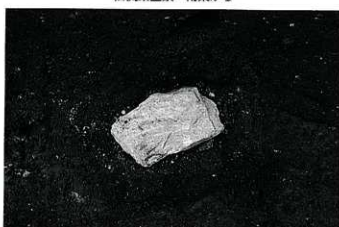
旧流路 C セクションアップ 南東から



旧流路全景 南東から



包含層遺物 No. 7 出土状況 北西から



包含層遺物 No. 9 出土状況 南から





1



2



3



4



5



6



7



8



9

参考文献

群馬県史編さん委員会 1990『群馬県史 通史編1 原始古代Ⅰ』群馬県

奥富 雅之 志田 登 宮崎 重雄 飯島 義雄 1996『倉賀野中里前遺跡』高崎市遺跡調査会

高崎市教育委員会 1998『高崎市遺跡分布図』高崎市内遺跡詳細分布調査報告書高崎市教育委員会

高崎市市史編さん委員会 1999『新編 高崎市史 資料編1 原始古代Ⅰ』高崎市

高崎市市史編さん委員会 2000『新編 高崎市史 資料編2 原始古代Ⅱ』高崎市

池田 敏 2001『倉賀野条里Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ遺跡 倉賀野上稲荷前Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ遺跡 三坊木Ⅰ・Ⅱ遺跡』高崎市教育委員会

黒田 晃 山本ジエームス 2009『倉賀野下新堀遺跡』高崎市教育委員会

小川 朋恵 2010『倉賀野西上正六遺跡』高崎市教育委員会

大野 義人 2014『倉賀野上極越遺跡』高崎市教育委員会

報告書抄録

フリガナ	クラガノツジヤクシ イセキ
書名	倉賀野辻薬師遺跡
副書名	宅地分譲に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書
シリーズ番号	第336集
編著者名	澤田 福宏
編集機関	有限会社 高澤考古学研究所
編集機関住所	〒370-0005 群馬県高崎市浜尻町930番地6
発行年月日	平成26(2014)年9月30日

所収遺跡名	倉賀野辻薬師遺跡						
所収遺跡所在地	群馬県高崎市倉賀野町字辻薬師5396番地1						
市町村コード	遺跡番号	北緯	東経	調査開始	調査終了	調査面積	調査原因
102020	584	36°18'6"	139°3'11"	20140106	20140207	380㎡	宅地分譲

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
倉賀野辻薬師遺跡	集落	古墳～ 平安時代	竪穴住居跡 溝 土坑	土師器 須恵器	As-B 降下以前の畠跡
	生産跡	古墳～ 平安時代	畠跡		
	包含層			縄文土器	
	その他		旧流路		

— 倉賀野辻薬師遺跡 —

高崎市文化財調査報告書第 336 集

平成 26 年 9 月 25 日 印刷

平成 26 年 9 月 30 日 発行

編集・発行 有限会社 高澤考古学研究所

印刷・製本 上武印刷株式会社